



ごみ日和

～みんなでごみゼロ～

No.51 2012.春



この印刷物は京グリーン電力を利用しています

家具修理から暮らしの喜びを求めて ～フィンガーマークスの挑戦～

地域に根ざす小さな会社が創り出す 家具と暮らす本当の満足

娘の嫁入りにと母が祖母からもらった「鏡台」が修理に持ち込まれた。母の時代に少し傷んでしまったこの鏡台を、なんとか修理して娘に持たせてやりたいと修理をしてくれるところを探しているうちに探しあてたのがフィンガーマークス。家具クリニックを生業とするこのお店、家具業界では難しいとされている修理を専門に請け負う会社である。



矢野 雅也社長。修理の相談には気軽にのってもらえる。

代表の矢野雅也が話してくれた。「確かに、その鏡台を拝見した時は傷んでいる箇所も多く、ちょっとタフな仕事になるかなと思いました。」でも矢野は続ける。「修理というのは傷んでいるところをこちらの考えだけで修理するというのでは無いのです。お預かりした鏡台はおばあさんの時代から続いてきた家族の時間が堆積しているのです。そこをしっかりと聞いていく。そして娘さんへ思いをつなぐ。そこに秘められた時間が連続と刻まれてこそ修理、すなわち再生になるのだと考えています。」と。

ちょっと昔の嫁入りの調度品と言えば、箆筒、長持とこの鏡台。嫁いだ先でも身を整えて、恥ずかしくない暮らしを営んで欲しいという親の愛の標でもある。そんな貴重な家具をなんとしても再生し使っていくんだという思いがこの現代に今一度復活していることに喜びを覚えた。

聞けば修理をのぞむ潜在顧客は多いという。「ああ、こういう店を探してたんや、というお客様が本当に目立つようになりました。」と言いながら矢野はこんな話をしてくれた。

「修理の依頼でお客様のお宅にお伺いするのですが、ついつい世間話や家具にまつわる思い出、果てはちょっと照明のシェード(傘)に埃がたまってるねえという話やキッチンの蛇口の水の出がおかしいという話まで。勿論私で出来ることはして差し上げま



修理を待つ椅子の数々。これらが美しく甦る。

す。それは単なるサービス精神からでは無いのです。家具クリニックとは使い手に「家具と共に居る」ことの豊かさをもう一度甦らせてあげることであり同時に家具単体だけでなく、その家具を取り巻く環境をも心地よくしておくことが大切だからです。そして何より顧客と温度のある体験を共にしたいと考えているのです。」

矢野の話聞きながらこの会社の売り物は修理に留まらず「家具との付き合い方を教えてくれる」ことなのだ教えられた。

彼は今後、作り手と使い手の新しい関係をさらに豊かに作り上げていくのでは。そんな期待が膨らんでいった。矢野が家具修理のアカデミーを開校していることも、地域に根差した活動を求めるのも、そしていつか家具修理の学校を作りたいとの夢を離さないのも、人々の心の中にやがてやってくるクオリティオブライフを求める時代が視野に入っているからだろう。



椅子の張り替え作業を見せてもらった。その手技はとてもしずみカル。

使い捨て時代を卒業する人々は着実に増えている。

新しい座標軸でものを見つめ直す時代がやがて花開き、矢野のような仕事をする人々がまた違ったジャンルで輩出されることを願ってやまない。

フィンガーマークスは今、京都市と共に「大型ごみのリユースモデル実験」に取り組んでいる。京都市民は購入することもできる。

この事業を通して、ちょっとした傷みなら自分で家具を修理する人々が増えたり、家具にまつわる物語を聞く機会が増えていけばいいな。そんな思いが膨らむ1日であった。

フィールドアロー株式会社 代表取締役 矢野 雅也
家具クリニックのフィンガーマークス <http://fingermarks.net>

取材：大橋 正明

◆大型ごみのリユースモデル実験 「リユース家具の展示販売」の参加方法については、6ページをご覧ください。

生まれ変わる、プラスチック製容器包装ごみ

～再商品化工場で見たこと、感じたこと～

森田知都子（環境省3R推進マイスター・京都市ごみ減量推進会議理事）

どうなっているの？プラスチック製容器包装ごみ

プラスチック製容器包装ごみ（以下「プラごみ」）のリサイクル工場に行ってきました。インスタントラーメンの袋、クッキーの袋、ペットボトルのフタ、お弁当や寿司の容器……。毎週、出して、集めにきてはるけど、プラごみはどうなっているの？」多くのプラごみが、どんな経路でどのように姿を変え、何に使われるのか。よくわからないまま、資源用ごみ袋に入れて出していたのですが、今回の工場見学でプラごみ再生の道を探ることができました。

JFEプラリソース(株)で高炉還元剤に

プラごみは、バージン樹脂の代替として利用する「マテリアルリサイクル」（材料リサイクル）や、鉄の精錬時にコークス（還元剤）の代替として利用するなど、化学反応により組成変換した後に利用する「ケミカルリサイクル」などの方法で、再利用されています。

私が訪れたのは「JFEプラリソース(株)（以下、JFE）」（神奈川県川崎市）。ここでは市町村から持ち込まれたプラごみが高炉還元剤となり、製鉄に利用されています。プラごみは、資源として再商品化が義務づけられ、日本容器包装リサイクル協会によって毎年入札によりリサイクル事業者が決定されています。京都市からJFEには約4330トン（平成22年度）が持ち込まれ、これは京都市のプラごみの半分*の量にあたります。平成22年度の京都市のプラごみは、JFEのほか、福井環境事業(株)、旭鉦石(株)でマテリアルリサイクルされています。

回収されたプラごみは・・・

京都市のプラごみのリサイクルの流れをご紹介します。

透明の資源用ごみ袋に入れられ、毎週回収されるプラごみは、中間処理施設である西部圧縮梱包施設や横大路学園に持ち込まれ、選別・圧縮・梱包されます。その後、リサイクル工場へ輸送され、それぞれの方法で再商品化のための資源として活用されます。

JFEに運ばれたプラごみは、異物除去や解砕機、破砕機などで細かく碎かれます。またプラには、塩化ビニール（以下塩ビ）が含まれているものもあり、選別機にかけて振り分けられます。塩ビ以外のプラは造粒機によりペレット状の粒になります。これは鉄鉦石から鉄を作るコークスの代わりに還元剤として利用されます。塩ビを含むプラは、脱塩化水素法といわれる技術で無酸素、約350℃の高温状態の下、塩化水素を分離し、リサイクルする技術も開発されています。

またJFEでは、造粒したプラスチック粒を原料として、型枠や床材に用いるボードの製造（マテリアルリサイクル）も行われています。

できるだけごみを出さないくらしを

プラスチック製容器包装材は、私たちがくらしの中であたり前のように使い、清潔で便利な生活を支えています。循環型社会のしくみのなかで、再商品化が進められてはいるのですが、回収、輸送、再商品化の過程で発生する地球環境への負荷を思えば、やはり3Rを基本に、第一のR、Reduce（発生抑制）を優先したくらしを目指したいものです。そして、プラごみを出すとき、異物を入れないというマナーも守りたいものです。



フィルム状のプラスチックが破砕されたもの



ボトルなど固形のプラスチックが破砕された状態



破砕機で碎かれたプラスチック



造粒され高炉還元剤に

*公益財団法人日本容器包装リサイクル協会が京都市から引き取ったプラスチック製容器包装の量は、平成22年度 8,778,270Kg

*容器包装のリサイクルについては [容リ協](http://www.jppra.or.jp/) (http://www.jppra.or.jp/) で検索ください。

『ものづくり小学校』の挑戦 ～確かな一歩、豊かな未来へ～

手仕事の価値や楽しさを、若い世代と一緒に見つめ直したい—『ものづくり小学校』はこのような想いを込めて、平成23年度にスタートしました。毎回、第一線で活躍される“ものづくりと暮らしの達人”を先生としてお招きし、物を大切に長く使うための智恵や技術をじっくりと教えて頂きます。開校1年目で145組もの応募があったことを見ても、ものづくりに対する関心の高さが伺えます。

今回、第4回目を迎えるものづくり小学校のテーマは、「世界でたった一つのスプーンを作ろう！」。一生ものの庖丁づくりで有名な「有次」の代表、寺久保進一朗さんをはじめ、小山さん、吉田さん、堂下さん、麻中さん、藤本さんの6名の凄腕の職人さんを先生としてお迎えしました。参加者は小学生とそのお父さん・お母さんの総勢38名。平らな金属の板から果たしてどんなスプーンができあがるのでしょうか。

トントン、カンカン。ぎこちなく、緊張した音が会場に響きます。ここは、伏見区にある、京エコロジーセンター3階のリサイクル工房。使い慣れない金槌を握り、銅板と向き合う子どもたちの顔には、好奇心と自信のなさが表れています。見守るお父さん、お母さんも、どことなく緊張ぞみ。

「金槌はな、こうやって親指をまっすぐにして握るんや。」寺久保先生が子どもに優しく語りかけます。「そや、その調子や！だんだんええ音になってきたやないか。」褒められた子どもは嬉しさいっぱい、隣で見ていたお母さんと思わず微笑み合います。

こんな光景が工房のあちこちで見られるようになると、金槌の音はトントン、カンカンと、力強く活き活きと鳴り響くようになります。銅板を打つたびに、少しずつスプーンの形に近づき、そして輝きが出てきます。その変化を心から楽しむように、トントン、カンカン、と心地良い大合奏は続きます。



スプーンの持ち手に、金槌で模様を付けていきます。



スプーンの強度を増すために、金床でしっかりと打ちます。

「スプーンの深さはこのくらい」「持ち手の柄や角度はこんな風にしてほしい」、子どもたち一人一人のものづくりに対するこだわりを尊重する寺久保先生。どんなに細かな希望にもさっと応える姿は、まるで魔法使い。目の前で、絶妙な形に変化していくスプーンを見ながら、子どもたちも興奮します。「手になじむ、使いやすい形が一番」。道具作りの基本を、子どもたちに教えます。「誰かの真似なんかせんでいい、自分が良いと思う形にせんと面白い！」それぞれのこだわりが光るスプーンが続々と誕生しました。

子どもたちの真剣な作業の様子を見て、大人たちもそわそわし始めます。「さあ、今からはお父さん・お母さん方もスプーン作りに挑戦してください！」職人さんたちは息つく暇もありません。お父さんは真鍮しんちゅうの板を片手に、少年の頃に戻ったように夢中で金槌を動かします。当然、カメラマンは子どもの役目。「お父さん、もっと

シリーズ みんなで考える

真ん中を叩かないと！」スプーンづくりを一度経験した子どもたちは、自分の親にアドバイスを始めます。いつもとは違う、その楽しそうな表情に、「大人も昔は子どもだったんだね。」と小学4年生の女の子が照れくさそうに微笑みかけていました。

「どうやったら良い物ができますか？」あるお父さんからの質問に、寺久保先生の声が熱を帯びます。「できあがった物も大事やけど、一生懸命気持ちを込めて作る、その過程そのものが大事なんや。」最初から“良い物”は存在しないのだと。上手く仕事ができているかどうかは、



スプーンの持ち手は、どんな丸みにするのか、寺久保先生が尋ねます。

音を聞いて、そして道具や地面から伝わってくる感触で見極めると言います。「一人前の職人になるには？そんなもん10年もあれば、何でも作れる立派な職人になれますよ。」会場からはどよめきが起こります。「私ら職人は、どんな物でも粗末には扱いません。今日、皆さんにお使い頂いた銅板は、ゆきひら鍋の胴の部分を取り切った後に残る、長方形の銅板を使っています。余った板が、世界にたった一つの立派な道具になったわけです。そして、これを使った後はクレンザーで丁寧に磨く、10年も使っていると持ち手が柔らかくなったり、スプーンの丸い形が変わってきますが、そうなったらどうぞ有次に持ってきてください。銅は打てば硬くなり、形を元に戻すことができます。そうやって道具に手を掛けることで、また10年使うことができる。物を大事に長く使ったら、その分ごみも減る、こんなことを伝えたくて、私らはものづ



職人さんが、一つ一つのスプーンに名前を入れてくれます。



家族みんなで記念撮影

くり小学校をしています。」寺久保先生は、他の先生方やスタッフの想いを汲んで語りかけます。小学生も大人も、じっと前を向き、今日の貴重な経験を思い返しながらか寺久保先生の話を心に刻みます。それぞれの名前が彫られたスプーンを持って。

「子どもたち、このスプーンを持ってまた会いに来てや！」

寺久保先生が未来に託した想いは、子どもたちの手に、そして暮らしの中に溶け込み、10年の時を経て、再び花開くことになるでしょう。

取材日：平成24年2月18日

取材：松村 香代子

*このものづくり小学校『親子で楽しむスプーン教室』は、京都錦市場 有次の皆さまのご協力により実現することができました。

『ものづくり小学校』

2R型エコタウン構築事業の一環（普及啓発）として実施。これまでに、「自転車とつきあうってこんなに楽しい！」（講師：(有)ナチュラルエナジー代表 長田達也さん、メカニック 山中功さん）、「お餅つきとしめ縄作りを楽しもう！」（講師：秦家住宅 秦めぐみさん）を開校し、季節を感じ、豊かに暮らすための提案を続けてきました。今回取材をした「有次さんと親子で楽しむ！手作りスプーン教室」は、昨年10月に続き、2回目となります。前参加者からの反響が大きく、また先生方からの「今後も継続的にやりましょう！」という、本事業への並々ならぬご理解により実現しました。

ものづくり小学校では、手と心を通して“本当の豊かさと楽しさ”を伝える授業を、これからも提案し続けます。

家族への愛情が、地域への愛着へ！

～松陽学区地域ごみ減量推進会議～

松陽学区地域ごみ減量推進会議（以下、松陽学区地域ごみ減）の立ち上げは平成22年。女性会が中心となり、約20名で活動をしています。実は、松陽学区では数年前に女性会の活動が休止、現在の女性会は自治連合会長さんの呼び掛けによって、3年前に新しく発足しました。朝倉会長のご自宅を拠点に、“できる人ができることを楽しみながら取組む”スタイルで、着実に活動の輪を広げています。



前列左から）朝倉会長、木下副会長、
後列左から）小林副会長、奥野会計監査、

今回の取材に参加して下さった副会長の小林さんは、地域ごみ減の立ち上げによってごみ問題や環境への意識の高まりを実感。京都市や京エコロジーセンターでの環境セミナーに積極的に参加しています。そして、その学習の成果を他のメンバーに伝えながら、松陽学区地域ごみ減での活動に活かしています。

同じく副会長の木下さんは、エコタワシ作りのスペシャリスト。用途に合わせて、編み方や形を工夫し、見た目にも可愛いエコタワシの魅力を伝えています。こんなにカラフルなタワシなら、キッチンや洗面台、トイレやお風呂周りのアクセントにもなり、毎日のお掃除も楽しくなります！



また、会計監査の奥野さんは、ご家庭で生ごみの堆肥化に挑戦。その経験から、家庭用コンポストの問題点を教えてくれました。コンポストの容量は、生ごみの処理能力とも関係するので、その大きさ選びは重要です。「3～4人の家庭用コンポストがもっと安く手に入ったらいいのに…。」購入費用の負担が

大きいと、活動を広げる時の障害にもなります。また、夏場は虫が湧かないように、コンポストに入れる素材や分量の工夫も必要です。これらの試行錯誤から得られた経験が、長く堆肥作りを続けるためのノウハウとして、地域の皆さんに伝えられていくのですね。

このように、頼もしいメンバーと情報共有をしながら、朝倉会長はごみ減の活動の中心でもある使用済てんぷら油や乾電池の年間回収予定表や、毎月の回覧用のチラシの作成などの広報にも力を入れています。地域の人の目に触れる掲示物の役割は大きく、季節毎のデザインや誰にでも身近に取組めるエコ情報を記載するなど、副会長の木下さんと相談しながら分かりやすく、印象に残るチラシを作成しています。

資源回収当日は、学区内3カ所の回収拠点にそれぞれ2人ずつ、お揃いの赤いジャンパーを着て、地域の方々とコミュニケーションを大切にしながら回収のお手伝いをします。資源回収は継続することで認識が広がり、回収量の増加のみならず、地域の環境意識の向上にも繋がります。拠点として場所を提供しているスーパーや松陽小学校も非常に協力的で、地域ぐるみで環境活動に取組む姿勢が伺えます。

松陽小学校での活動としては、昨年の秋祭りに身近な素材を使った手作り教室を開催。小学校や神社で拾った立派な松ぼっくりと、プリンカップなどを使ったクリスマスツリーを作りました。カラー粘土で飾りを作り、思い思いに色付けしたツリーは、世界に一つだけの特別なもの。子どもたちが真剣に取り組む姿に、また今年もこのような企画を続けたい、とメンバーの想いは高まります。



自治連合会では2年前から地域のふれあいの場として、「松陽ふれあい夏まつり」も復活させました。地域の方々に気軽にお祭りに参加してもらうことで、自治連合会の活動を知ってもらい、地域の活動に関心を持ってもらうきっかけとなることを望んでいます。また、昨年3月に起きた東日本大震災も、地域との繋がりを見直すきっかけになったと言います。松陽小学校との連携も様々な意味で今、必要とされています。

地域の期待を受け、松陽学区地域ごみ減の活動は益々重要になってきます。家庭と地域を繋ぐ女性の力は、安心・安全な町作りには欠かせません。「小学校や地域の行事にも、より積極的に関わっていききたい」と朝倉会長。メンバーの皆さんの若さとバイタリティー溢れる姿に、今後の活動の盛り上がりを確認した、楽しい取材となりました。

取材日：平成24年1月25日
取材：松村 香代子

大切に使って。もっぺん使ってもらおう。 京都市の『リユース家具の展示販売』

大型ごみとして出される「家具」を分別収集し、その内リユース（再使用）可能なものを、プロの家具職人が修理・清掃を行い、リユース家具として市民の皆様にご安価で販売する取組です。

分別収集

「きれいに使っていたので、ぜひリユースしてください！」
「うちではいらんようになってしまったけど、使ってもらえたらうれしいねえ。」

修理

思った以上に、綺麗な家具が収集されています。
修理、清掃して、展示会場へ。



展示

「けっこう綺麗なものが多くねえ。」
「え！これだけ？少ないね〜。」
「リストには載ってなかったけど、こんないいものが、この値段で！！」
「写真で見ると違うね。」
など、いろいろなお声をいただいています。



●リユース対象となる家具を収集申込みされた方の中で、
リユースを承諾いただいた方は、なんと約7割！

同様の事業を行っている他都市に比べて承諾率が高く、対象地区以外の方から、「うちのもリユースしてもらいたいわあ」という声もでています。
さすが「京都議定書」誕生の地！意識の高さがうかがえます。

●収集した340個のうち、約120個をリユースへ。

リユースを承諾いただいた家具の収集量は、5.3tで、リユース対象となった家具は約5割、チップとしてリサイクルしたものは約3割（いずれも重量ベース）。

破砕、焼却される量が、グーンと減りました！

1～2月の2ヶ月間で

★ご来場者数は、約520人。

★申込件数は、約90件。

★新しいうちへ引き取られた家具は、60個。

会場でしかわからないこともあるので、皆さん見に来てください！

大型ごみの分別収集について

大型ごみ受付センターに収集の申込みをいただいた際、「モデル地域^{*1}」にお住まいで、「家具^{*2}」の収集を申請された方に、リユースの可否を伺います。

リユースを承諾いただいた家具は、分別収集し、修理、清掃のうえ展示・販売します。
(ただし、リユースする場合も、通常と同じ粗大ごみ処理手数料がかかります。)

※1 モデル地域:北区、上京区、左京区及び右京区の一部（市内の約1割世帯）

※2 家具:タンス、棚、テーブルなど

リユース家具 申込み(購入)方法について

- 1 ホームページ、区役所・支所のエコまちステーション等で、展示品リスト・販売価格を確認
- 2 展示会場にて、色や傷など、実際の家具の状態を確認
- 3 展示会場にて、申込用紙を記入し、受付に提出（即時購入はできません）

※京都市にお住まいの方で、御本人に限り、毎月5点まで。

※インターネット、電話等での申込みはできません。御来場による申込みのみ。



*数値は、事業開始（11月16日）～平成24年2月末日までのものです。

*詳しい収集申込方法や、展示販売品の申込方法は、京都市環境政策局 循環型社会推進部 循環企画課へ（075-314-0347）

事務局より

物を選んで大切に使う。大切に使用していたけれど、生活に合わなくなってしまった物を、誰かにもっぺん使ってもらおう。壊れてしまった物は修理して使う。そんな素敵な循環が、もっともっと広がっていくといいですね。

修理のお店を探すなら、パソコンで **もっぺん** と検索してください。 <http://www.moppen-kyoto.com/>

ライター募集中：環境に関心があって、取材＆原稿執筆に興味がある方、事務局までご連絡ください。（学生の方も歓迎です！）

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごごみ日和 No.51

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL:075-647-3444/FAX:075-641-2971
E-mail: gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

🔍 ゴミゲン ネット

🔍 検索 🔍 で検索出来ます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。当会議では、ともに活動する会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会
(会報誌・ホームページ小委員会)